



北海道清里高等学校 学校運営協議会

コミュニティスクール通信

令和5年度第2号（令和5年 11 月 27 日発行）



【旧職員 牛島先生作 校舎からの斜里岳】

〇11月13日(月) 令和5年度コミュニティスクール教育講演会〇

清里町に在住の NPO 法人 ETIC ローカルイノベーション事業部コーディネーター 堀川 風花（ほりかわ ふうか）氏を講師にお招きして、講演会を行いました。「夫に仕事を辞めさせてまで清里に戻ってきた訳」というテーマで、生徒に「自分が育った地域と向き合うことの大切さ」や「普段は気がついていない田舎ならではの幸せ」や「将来に向けての願い」など、清里町で育ち、清里町に貢献したい思いの詰まった講演でした。



〇11月17日(金) 第2回学校運営協議会〇

●コミュニティスクール教育講演会の実績報告

生徒参加 92名 一般参加 14名

●討 議 : 4名1グループで協議を行っていただき、グループでのまとめを共有しました。

討議テーマ① 学校運営協議会の機能強化 ～持続的な活動を目指して～

情報提供 ① 令和6年度「清里探究」（総合的な探究の時間）の企画・運営

①やりたいこと

▲教員の指導のもと、生徒が課題設定や課題解決を行う。



○地域の人と一緒にあって、生徒が課題設定や課題解決を行う。

②現在までの状況と移行案

現在の実施状況

地域への提言活動を令和3年度から初めて3年目となる。

「第6次清里町総合計画」を基に生徒が課題となるテーマを設定して、提言を行う。

候補案1 「地域への提言」を地元の人と一緒に課題設定をして、解決する。

（現在の「清里探究」を継承する。一緒に考えるのは教員ではなく、地元の人）

候補案2 地域イベントでの活動を企業などと一緒に準備段階から体験・実践する。

（2学年インターンシップの拡充版。企業の指導のもと、準備から実施まで）

情報提供 ② 令和6年度「インターンシップ」の企画・運営

●地域イベントでインターンシップを実施する

①イベント機会

7月 きよーる祭 観光協会 令和5年は、学校祭の次の日に実施。

8月25日 清里神社祭 商工会で飲み物屋台の実績あり。

9月1日予定（第1日曜日） 産業祭り 町内外より60店舗の出店実績あり

9月中旬斜里岳ロードレース 観光協会、商工会で10ブース程度の実績あり

【協議の結果、学校への意見】（抜粋して、一部を掲載）

産業まつりと学校祭の内容が類似していることから、産業まつりに学校からブースを設置できるとよいと思う。

清里探究については、行政サイドとコミュニケーションからの提言だけではなく、JA、役場と連携を拡大する、近隣の小清水町、斜里町との比較をすることもよいのではないかと？

清里の場合、盆踊りなどのイベントがあるので高校生が参加し、現状把握することでそこからいろいろ考えてもらう手段もあるのではないかと？

候補案１（地域提言型）と候補案２（イベント参加型）を比較した場合、候補案２が圧倒的によい。理由として、候補案１（地域提言）は、清里小学校・中学校でも学習活動としてやっている。さらに深みをとという意味では、地域提言の活動も成立しないわけではないが、座学が主体となるので、高校生は体験活動を通して、ハードルは高くなるが、肌で感じながらイベントを作っていくという体験をするのがよいのではないかと意見となった。

参加するイベントとしては、産業まつりが適切だと考える。利点として、示されたイベントで

一番人が来るのが産業まつりであること。人目に必ずつくところで生徒が活動することで中学生や保護者、地域住民に清里高校の活動を見てもらえるメリットがある。



討議テーマ② 清里高校をどんな学校にしたいか？ 全員で考え直しましょう！

【協議の結果、学校への意見】（抜粋して、一部を掲載）

どんな地域に行っても子どもたちが対応できるコミュニケーション能力に優れている生徒を育成する必要がある。ポイントとして、あいさつ問題があげられた。あいさつをすることは当然であるという理の一方で、知らない人としゃべるのはまずいという指導が必要であったり、名札を付けないなど安全管理の問題もあげられた。一方で清里高校の生徒で停止礼ができる子が、いることはすごいこと。清里の子たちは基本マナーがよいのでいかにコミュニケーション能力を高めるかが課題となる。

清里の生徒の資質から考えて、コミュニケーション能力をよりよく育ててもらえるのがよいのではないかと話合いをしていた。

自分の住んでいる地域を自慢できるようになってほしい。自分の地域を自慢できることによって、生徒の自信につながったり、Ｕターン就職のきっかけになったり、自分の町を自慢して他の人に話すことで地域や町の宣伝にもなる。

どんな学校にしたいかと言うことについては、それぞれ生徒で感じ方が違うと思うが、どんな分野でもよいので生徒が卒業したときに「よかったな」といえる学校にしてほしい。

オールマイティーな力を生徒に身に付けさせてほしい。上級学校の見学会の実施を拡大、またはしっかりやってもらって、生徒が自身の課題を発見・向き合ったことの実現に力を尽くしてほしい。

あいさつの指導に力を入れるとよい。人と会えばあいさつ、話のきっかけはあいさつというように我々が高校生時代に受けてとても印象に残っているということと、生徒が町民にあいさつをすることで町民とのコミュニケーションも良くなるのではないかと。

※ 委員の皆様、貴重なご意見、ありがとうございました。今後も引き続きご支援をお願いします。